

戸塚区移動情報センター通信 第1号

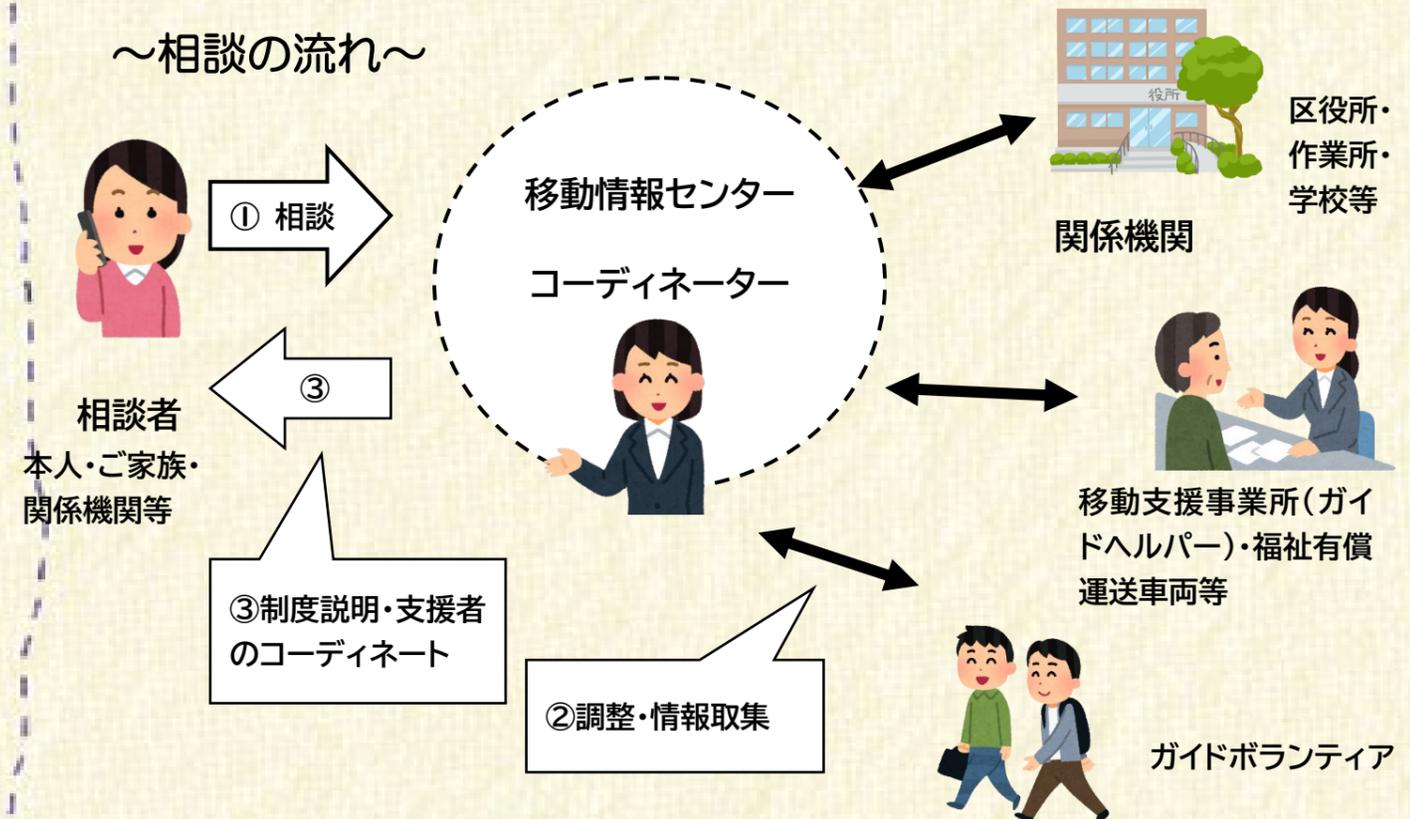
発行:(福)横浜市戸塚区社会福祉協議会 移動情報センター

専用電話☎:045-862-5091 FAX:045-862-5890

☆移動情報センターは障害のある方が外出するための相談や情報提供を行っている

窓口です。外出の目的や行先などのニーズに沿った情報提供をしています。

～相談の流れ～



☆ご相談に対して、移動に関する支援制度のご案内や、サービス事業所などの紹介・コーディネートを行います。ご紹介する内容は、公的サービスだけでなく、福祉有償車両や地域のボランティアなど移動支援に関する情報全般です。ガイドボランティアの利用時には、まずは面談をさせていただき、その後ガイドボランティアさんとの顔合わせ同行を経て、活動が始まります！

～こんな時にご相談ください～

- ◇外出したいがどのようなサービスが利用できますか
- ◇通学・通所の送迎を手伝ってほしい
- ◇余暇・通院に付き添ってほしい
- ◇車いすのまま乗れる車両を探してほしい



Cさん

- ① 以前から面識があり、直接依頼いただいて、週1回ならと活動を始めました！
- ② 車いすの方の支援なので、車などの交通量に気を付けながら行っています。ご本人がしっかりしているので心配いりませんが、ご本人やご家族との関係性が出来る中で長く続けることができます。

Eさん

- ① もともと障害に関わるボランティアをいくつかやっていたので、その流れでやることになりました。今の子は成長が早く様々な情報を教えてもらっています。おしゃれも大人顔負け。日々エネルギーをもらっています。子どもと接して、自分の世代では無い考えを知ることができて、自分にとってプラスに感じています。
- ② 日々の会話を大切にしています。相手がお話しなくても、嫌がられない限りは楽しく会話をするようにしています。ご家族は皆さん一生懸命なので、そういった想いも大切にしています。活動日に会った際はご要望を聞くこともあります。

Dさん

- ① 以前、送迎ボランティアをやっていた関係で始めました。自分自身、何かお手伝いができればと思い始めました。また、車の運転や見守りなど限定的な活動なら、できるかなと思いました。活動中はご本人の興味があることをたくさん話してくれるため、同じ話ができるようにご本人が好きなゲームの勉強をしています！
下駄箱で動かなくなってしまう時など対応方法が分からないこともありますが、その都度移動情報センターへ相談しています。
- ② 安全面（車や側溝）などは細心の注意をはらって行っています。



<ガイドボランティア募集中>

*ガイドボランティアの活動をされている方が多く、ご近所で、できる範囲の活動を下されています！また、そういった活動がご家族の支えとなっています😊
活動にあたっては、顔合わせや、同行を行ったりと移動情報センターが全力でサポートします。ご興味ある方はご連絡ください！ 電話☎: 045-862-5091

今回はガイドボランティアとして活動してくださっているボランティアさん、支援対象者の方にインタビューしてみました！



ガイドボランティアとは??

障害のある方（視覚・肢体・知的・精神・難病）が外出される際に必要となる付き添いを行うボランティア活動です。
活動1回につき、奨励金（1回4時間以内500円、交通費が発生する場合1,000円）が支払われる横浜市独自の制度です。活動には登録が必要です！
※ガイドヘルパーは既定の研修を受講し資格を取得をした方が、お仕事として障害のある方に付き添いを行います。

～活動事例～

ガイドボランティアとして活動してくださったAさん、ガイドボランティアを利用していたBさんご家族に活動を通じた感想をインタビューしました！

Bさんご家族が最初に移動情報センターに相談いただいたのが、中学1年生の頃でした。そこから約3年半の期間、Aさんに付き添いをしていただき、現在Bさんはお一人で登校ができるようになりました！

ガイドボランティア Aさん

Q 活動を始めたきっかけはなんですか？

A 元々障害に関わる仕事をしていました。退職し、ガイドボランティアというボランティアがあると知り登録しました。

Q 活動中、気を付けていたことはありますか？

A まずは安全面が一番ですが、何より、活動時何気ない会話や距離感を大事にしました。

Bさんが中学1年生の頃からガイドボランティアをしており、最初はお本人の人見知りもありましたが、徐々に会話も増え、関係性ができてきたように感じています。合唱コンクールなどの行事がある際には口ずさんでくれたり、国名を当てるゲームをしたり、楽しみながら登校ができました。

また、一番変化したと感じたことは、「おはよう」「いってきます」などの挨拶が大事だよと伝えていたところ、今では最初の文字を言ったら自分から挨拶をしてくれるようになったことです。そういった小さな変化も、ご家族にもメールなどでお伝えするようにしていました。日頃から地域の方も見守ってくださっていて、そういった方たちに対しても挨拶を行うことで、よりよい関係性になると感じました。

Q ガイドボランティアをしてみたいかですか？

A 現在、ボランティア活動を生活のリズムに合わせて行っているため、負担はありません。無理なく行うことで長く続けることができているため、今後もできる範囲で活動を続けていきたいと思っています。



<活動内容>

中学生 自宅 → 中学校（徒歩30分）

高校生 自宅→バス停→バス→歩き→学校

高校生になってからは、自宅から学校まで送っていたのが、バス停までの距離になり、ご本人のペースに合わせて少しずつ距離を短くしながら付き添いを行っていました！

Bさんご家族

Q. ガイドボランティア事業を知ったきっかけはなんですか？

A. 学校からもらった移動情報センターのチラシだと思います。中学生になるにあたり、距離が小学生の頃と比べて倍以上（徒歩片道30分往復1時間）を毎日送迎となると体力的に自信がなく、ガイドボランティアさんをお願いしてみたいと思いました。

Q. ガイドボランティアを利用してみて、感じたことなどありますか？

A. ガイドボランティアのAさんは、お仕事の都合で対応できる日が週1～2回だけですが、それでも朝の時間にゆとりができて本当に助かりました。本人は思春期ということもあり、親の私が付き添う時はほとんど会話なく、スタスタ歩いていましたが、Aさんはいつも優しく話しかけてくださるようで、息子はボランティアさんと登校するのを楽しみにしていたのではないかと思います。地域に子どもを見守ってくれる人がいてくださって、とてもありがたかったです。

Q. 現在のようにお一人で通学できるようになるにあたって、ご家族で工夫されたことはありますか？

A. なるべく安全なルートを選んで毎回同じ道を通るようにしました。信号がない歩道は、左右をよく確認するよう声かけをしました。本人が自信を持てるまでは無理につきはなさず、様子を見て、少しずつ付き添う距離を少なくしていきました。中学3年生の終わり頃には1人行ける日もできました。

高校生からは公共のバスを使った通学になり、工夫したことは福祉パスを出し入れしやすい位置のカバンのポケットにつけたり、他の乗客の迷惑にならないようにバスに乗る前にリュックを前に持ち変えるように声かけしました。自宅から歩けるバス停が複数あり、学校から帰る時などのバスに乗っても停まるバス停にしました。

